

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
研究方法Ⅰ（看護研究概説）	看護学研究科 共通科目	2	1	看護実践における研究の意義と役割、看護研究に求められる倫理的姿勢について教授する。具体的には、量的・質的研究の基礎について概説するとともに、量的・質的研究における代表的な研究デザインの概要を解説する。また、看護実践から研究問題を明確化し、文献クリティーク、研究枠組みの構成、研究デザインの選定、倫理審査申請、データ収集・分析、成果公表を行う一連の研究プロセスについて解説する。	1. 量的・質的研究それぞれの特徴を説明できる。 2. 研究計画を作成する一連のプロセスを説明できる。 3. 研究方法に応じて求められる倫理的配慮事項、ならびに申請書に記載すべき事項を説明できる。 4. データに応じた分析方法を説明できる。 5. 研究論文の標準的な構成を説明できる。 6. 研究成果を公開する方法とその特徴を説明できる。	1. 量的・質的研究それぞれの代表的な研究デザインについて、その特徴を説明できる。 2. 研究計画を作成する一連のプロセスをおおむね説明できる。 3. 研究方法に応じて求められる倫理的配慮事項、ならびに申請書に記載すべき事項の概略を説明できる。 4. データに応じた分析方法の要点を説明できる。 5. 研究論文の標準的な構成を説明できる。 6. 研究成果を公開する方法とその特徴をおおむね説明できる。
研究方法Ⅱ（量的・質的研究法）	看護学研究科 共通科目	2	1	看護研究の代表的手法である量的並びに質的研究法の特徴、限界、方法論の具体について教授する。量的研究では、疫学研究、実験・準実験研究における対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを避けるための研究デザイン方法とともに、データの記述・要約、関連性・因果関係の検討、予測・分類を目的とした一連の統計手法について解説する。質的研究では内容分析、Grounded Theory Approach、現象学的アプローチによるデータ収集方法、分析方法について解説する。（オムニバス方式／全15回）	看護研究における質的研究と量的研究の方法を理解し、実際の研究に応用できる。	看護研究における質的研究と量的研究の方法の要点を理解し、実際の研究に用いることができる。
看護倫理	看護学研究科 共通科目	2	1	医療の高度化が進展し、人々の健康ニーズが多様化する中で、看護専門職者として、人々の生命と尊厳を守り、権利を擁護・唱道する上で必備となる、看護倫理に関する概念や知識を教授する。また、高齢者の人工栄養の開始と中止など看護職者が倫理的ジレンマを感じる実践場面や組織倫理、看護職者への倫理教育プログラムの展開例を取り上げ、グループディスカッションを通じて、看護職者に求められる姿勢と対応、倫理的課題を解決する方略、ならびに研究倫理について理解の深化をはかる。（オムニバス方式／全15回）	1. 看護倫理を考えるための原則および諸概念を説明できる。 2. 看護実践における倫理的課題を検討するための方法論を説明できる。 3. 生と死、虐待、差別など今日の医療・看護にかかわる倫理的課題を分析的に検討できる。 4. 研究における倫理的配慮を理解し、研究計画に反映できる。	1. 看護倫理を考えるための基本的な原則および基本的な諸概念を説明できる。 2. 看護実践における倫理的課題を検討するための基本的な方法論を説明できる。 3. 生と死、虐待、差別など今日の医療・看護にかかわる倫理的課題を検討できる。 4. 研究における倫理的配慮を理解し、研究計画に反映する必要性が理解できる。
フィジカルアセスメント	看護学研究科 共通科目	2	1	健康問題をもつ対象に適切な看護を提供するために、健康状態の正常と逸脱を査定し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。生活歴や病歴の聴取を含め、対象から得られた主観的情報と系統的フィジカルイグザミネーションで得られた客観的情報を統合し、対象の健康状態を査定する技術を修得する。対象のライフステージや健康レベルにおける問題や課題を取り上げ、病態の予測を可能にするフィジカルアセスメントの実践能力を育成し、対象に必要な看護ケアへの活用方法を学ぶ。（オムニバス方式／全15回）	1. フィジカルアセスメントに必要な身体の構造・機能を理解している。 2. 系統的なフィジカルアセスメントの技術を習得している。 3. フィジカルアセスメントにより身体状況の正常・逸脱を判断できる。 4. フィジカルアセスメントで得られた情報を総合的に評価し、臨床看護判断に活用できる。	1. フィジカルアセスメントに必要な身体の構造・機能を概ね理解している。 2. 系統的なフィジカルアセスメントの主要な技術を習得している。 3. フィジカルアセスメントにより主要な身体状況の正常・逸脱を判断できる。 4. フィジカルアセスメントで得られた情報を総合的に評価し、臨床看護判断に加えることができる。
対人援助論	看護学研究科 共通科目	2	1	対人援助の基盤となる理論・モデルである、EQ理論（Emotional intelligence Quotient：情動知能）、保健行動理論等について、最新の知見にもとづき教授する。また、これらの理論を応用し行う、看護師の対人関係構築、コミュニケーション、保健指導などの実践例を取り上げ、グループディスカッションを通じて、臨床における看護ケアや、健康増進支援における対人援助技術を向上させる方法について考察するとともに、今後の検討課題を検証する。（オムニバス方式／全15回）	1. 対人援助の基盤となる対人関係理論について理解している。 2. 対人援助・患者支援の技術について理解している。 3. 行動変容支援の基盤となる保健行動理論の枠組みについて理解し、その看護実践、看護研究への応用方法と検討課題について考察することができる。	1. 対人援助の基盤となる対人関係理論について、概ね理解している。 2. 対人援助・患者支援の主要な技術について理解している。 3. 行動変容支援の基盤となる保健行動理論の枠組みについて理解し、その看護実践、看護研究への活用について考察することができる。
看護教育論	看護学研究科 共通科目	2	1	系統的な教育活動を展開するために必要な知識と技術の修得を目指す。教育学の基本的原理をふまえたうえで、看護教育の歴史、制度、対象、方法等の特性を概説するとともに、教育実践の理論と展開方法を教授する。加えて、授業設計、授業分析、授業評価の方法を解説し、これらを基盤に、看護基礎教育、看護技術教育、ならびに大学院教育、高度実践看護教育、卒後教育の現状と課題を、キャリア発達の観点から検討する。（オムニバス方式／全15回）	1. わが国の看護教育の歴史的変遷と法的基盤を説明し、課題を述べることができる。 2. 看護教育における教授-学習過程と学習者の特徴をとらえることができる。 3. 授業設計を一連の流れとしてとらえ、各ステップの概要と留意点を説明することができる。 4. 学習理論を用いて教授-学習過程を活性化するための方略を提案することができる。 5. 授業評価のあり方を説明し、課題を考察することができる。 6. 看護教育を専門職の生涯教育としてとらえ、キャリア発達の支援のあり方を考察することができる。	1. わが国の看護教育の歴史的変遷と法的基盤を説明し、主要な課題を述べることができる。 2. 看護教育における教授-学習過程と学習者の主要な特徴をとらえることができる。 3. 授業設計を一連の流れとしてとらえ、各ステップの概要と留意点を説明することができる。 4. 学習理論を用いて教授-学習過程を活性化するための具体策を提案することができる。 5. 授業評価のあり方を説明し、課題を考察することができる。 6. 看護教育を専門職の生涯教育としてとらえ、キャリア発達の支援のあり方を考察することができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
保健医療福祉政策論	看護学研究科 共通科目	2	1	我が国の保健医療福祉政策の現状を理解し、今後の課題を明確化するため、少子高齢化と人口減少に伴う我が国の社会保障制度の歴史と動向を概説する。さらに、ニーズを踏まえた保健医療福祉政策・制度の策定及び決定における政策過程について概説するとともに、看護専門職者か施策化・政策過程に関わった実例（国家レベル、地方自治体レベル、職能団体レベル）を取り上げ、グループディスカッションを通じて、保健医療福祉政策過程と社会資源創出に、看護専門職者が関与する意義と役割について考察する。 （オムニバス方式／全15回）	1. 我が国の社会保障の動向を理解し、保健医療福祉政策の課題と展望について検討し、考察することができる。 2. 政策過程のプロセスを説明することができる。 3. 政策過程を分析し、その結果を考察することができる。 4. 保健医療福祉政策と実践との関係について、看護専門職者が関与する意義及び役割を説明することができる。	1. 我が国の社会保障の動向を理解し、保健医療福祉政策の課題と展望について検討し、概ね考察することができる。 2. 政策過程のプロセスを概ね説明することができる。 3. 政策過程を分析し、その結果を概ね考察することができる。 4. 保健医療福祉政策と実践との関係について、看護専門職者が関与する意義及び役割を説明することができる。
多職種連携	看護学研究科 共通科目	2	1	保健医療福祉分野における多職種連携への関心、必要性は近年、急速に高まっている。このように多職種連携が必要とされるようになった歴史的経緯、国内外での動向、並びに多職種連携や協働に関する概念、理論を概説するとともに、多職種連携・多機関連携を推進するための展開方法を教授する。加えて、保健医療施設や地域における多職種連携の実践事例から、健康レベルや健康問題、実践の場の違いによる連携・協働の特徴を把握するとともに、連携の困難さを乗り越える方略を検討する。 （オムニバス方式／全15回）	1. 現在のように保健医療福祉分野において多職種連携の取り組みが活性化するに至った歴史的経緯を、国内外の動向を踏まえて説明できる。 2. 多職種連携および協働に関する概念、理論を説明できる。 3. 多職種連携の展開方法の要点が説明できる。 4. 母子、精神障がい者、高齢者等を取り巻く医療情勢の変化や対応について多職種との連携・協働の重要性の理解を深める。	1. 現在のように保健医療福祉分野において多職種連携の取り組みが活性化するに至った歴史的経緯を、国内外の動向を踏まえて大まかに説明できる。 2. 多職種連携および協働に関する概念、理論を大まかに説明できる。 3. 多職種連携の展開方法の要点が大まかに説明できる。 4. 母子、精神障がい者、高齢者等を取り巻く医療情勢の変化や対応について多職種との連携・協働の重要性の理解を深める。
療養生活支援看護学総論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	2	1	病状の回復・安定と療養生活の質向上を支援する看護実践上の課題を見出すために必要な知識の獲得を目的に、生涯発達に関する理論と、小児・成人・老年の各期における我が国の疾病構造や健康課題に関する統計データ、医療安全の現状について教授する。加えて、リスクマネジメントの実践事例、あるいは各発達段階に特徴的な健康課題に対応した実践事例を選び、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、療養の場の管理運営や環境調整及び療養生活をおくる人々への個別支援とチームアプローチに関する理解を深化させる。 （オムニバス方式／全15回）	1. 国際比較、過去から現在への推移、今後の推計から、各発達段階における疾病構造や健康課題の特徴を系統立てて説明できる。 2. 生涯発達に関する主要な理論、ならびに各発達段階に特有の理論や概念を具体的事象と関連づけて説明できる。 3. 各発達段階において求められる療養生活支援の特徴について具体的事象をもとに説明できる。 4. 個別アプローチとチームアプローチの双方向から、状況にみあった療養生活支援の枠組みを構築できる。 5. 療養生活環境やシステムに対するマネジメントについて、状況を踏まえた具体的な方法を説明できる。	1. 国際比較、過去から現在への推移、今後の推計から、各発達段階における疾病構造や健康課題の特徴を説明できる。 2. 生涯発達に関する主要な理論、ならびに各発達段階に特有の理論や概念を説明できる。 3. 各発達段階において求められる療養生活支援の特徴について説明できる。 4. 個別アプローチとチームアプローチの双方向から、療養生活支援の枠組みを構築できる。 5. 療養生活環境やシステムに対するマネジメントの方法を説明できる。
看護管理学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	2	1	看護管理学の基盤となる概念、及び看護サービス管理について主に組織管理、人的資源管理、安全管理などの視点から主要な理論および実践モデルについて、最新の知見をもとに教授する。具体的には、看護管理の歴史、看護行政の動向と課題、看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）、看護管理の構成要素とシステム、看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）、組織文化の醸成など今日的なテーマについて事例検討も踏まえながら掘り下げる。全体をとおして、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の探究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1. 看護管理の歴史に対して理解を深め、看護管理に関わりのある制度や政策の動向と課題について学習内容を踏まえて検討することができる。 2. 看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）について理解を深め、看護サービスの質の管理における課題と解決策について学習内容を踏まえて議論することができる。 3. 看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）について理解を深め、組織経営や人的資源管理における課題と解決策について学習内容を踏まえて議論することができる。 4. 組織文化の醸成について理解を深め、組織文化の醸成に関する課題と解決策について学習内容を踏まえて議論することができる。	1. 看護管理に関わりのある制度や政策の動向と課題について検討することができる。 2. 看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）における課題と解決策について議論することができる。 3. 看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）における課題と解決策について議論することができる。 4. 組織文化の醸成に関する課題と解決策について議論することができる。
小児看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	2	1	小児看護学の基盤となる子どもおよび家族の理解、子どもの最善の利益に向けた支援に関する理論・概念・モデル、および方法論について理解を深め、子どもと家族、および、それらを取り巻く環境に伴う状況にかんする現状と課題について、実践的な事象をもとにした理解と支援方法について探求する。さらに、子どもと家族の置かれた今日的課題に対する、理論・概念・モデルの援用について理解し、実践的な支援の方法と課題の明確化を図る。各回のテーマに応じて、講義形式、プレゼン形式、グループディスカッション形式により、受講生の主体的な学びを展開する。	1. 子どもと家族に関する主要な理論および概念について理解し、小児看護学との関係を説明できる。 2. 子どもと家族、および、それらを取り巻く環境の現状と課題を、生涯発達、生活、健康の観点から説明し、統合することができる。 3. 小児期に特有な健康課題について実践的および学術的動向から理解し、発達・健康・生活の観点から効果的な支援方法について提示できる。 4. 子どもと家族の健康に関連した諸課題を国内外の事例および文献をもとに検討し、効果的な支援方法について提示できる。	1. 子どもと家族に関する主要な理論および概念について説明できる。 2. 子どもと家族、および、それらを取り巻く環境の現状と課題を、生涯発達、生活、健康の観点から把握し説明できる。 3. 小児期に特有な健康課題について実践的および学術的動向から理解し、発達・健康・生活の観点から支援方法について説明できる。 4. 子どもと家族の健康に関連した諸課題を国内外の事例および文献をもとに検討し、支援の方法を説明できる。
成人看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	2	1	成人看護学の基盤となる概念、理論、及び急性期看護、回復期看護、慢性期看護、終末期看護における主要な実践モデルについて、最新の知見をもとに教授する。特に、成人療養者の社会復帰に深くかかわる排泄などのセルフケア支援、終末期がん患者の心理的支援に関する実践例を通して、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の探究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。 （オムニバス方式／全15回）	1. 成人看護学の研究動向と課題について説明できる。 2. 理論や看護実践モデルを活用し、成人期にある対象の特徴を説明できる。 3. 国内外の文献を活用し、看護実践モデルの問題と研究課題についてクリティークできる。 4. 講義による学習や討議を通して自己の研究課題を探求し、深化できる。	1. 成人看護学の研究動向と課題について、概ね説明できる。 2. 理論や看護実践モデルを活用し、成人期にある対象の特徴を、概ね説明できる。 3. 国外の文献を活用し、看護実践モデルの問題と研究課題についてクリティークできる。 4. 講義による学習や討議を通して自己の研究課題を探求し、深化できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
老年看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	2	1	老年看護学の基盤となる概念、理論、及び超高齢社会ならびに多死社会に特有の健康課題と主要な実践モデルについて、最新の知見をもとに教授する。また、認知症ケア、終末期ケア、家族介護、介護サービス利用支援など老年期に特徴的な療養生活支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の探究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1. 高齢者の理解に不可欠な、老化、生涯発達に関する理論とその特徴を説明できる。 2. 高齢者の身体・心理・社会面の評価尺度を特徴を説明し、状況に併せて適切に選択できる。 3. 高齢者医療制度、保健福祉政策の整備過程を理解した上で、現状の課題を説明できる。 4. 高齢者・家族に特徴的な健康問題について、実践面の課題、ならびに研究動向について理解する。	1. 高齢者の理解に不可欠な老化、生涯発達に関する理論とその要点を説明できる。 2. 高齢者の身体・心理・社会面の評価尺度を特徴を説明できる。 3. 高齢者医療制度、保健福祉政策の整備過程を説明できる。 4. 高齢者に特徴的な健康問題について、実践面の課題を説明できる。
療養生活支援看護学演習	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援 看護学領域	4	1	疾病や障がいをもつ小児・成人・老年期の各ステージにある人々と家族の療養生活の質ならびに療養環境の安全性の向上を支援する看護実践上の課題について、学生自身の問題意識や経験にもとづき、国内外の文献検討及びフィールドワークを行い、その成果発表とディスカッションを通じて研究疑問を洗練する。さらに、研究疑問に適した研究デザインを選定し、計画書を作成するまでの一連の過程を通して、研究計画立案のための基礎的能力を発展させる。 なお、本科目の運営については、問題意識の掘り下げと問題意識の包括的検討の双方向から探究できるよう、研究計画作成のプロセスにおける「文献検討」「フィールドワークの計画と実施」「研究計画立案」は、学生の研究疑問に直結した分野で指導を行い、「研究テーマの発表と討論」「文献検討結果の発表と討論」「フィールドワーク成果の発表と討論」「研究計画の発表と討論」は分野横断的に指導を行う。 (共同/全30回)	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検索ができる。 2. 和文および英文の研究論文をクリティークすることができる。 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを洗練し、概ね妥当な研究計画を立案することができる。	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内を中心とした文献検索ができる。 2. 和文を中心に、研究論文をクリティークすることができる。 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを一定程度洗練し、研究計画を立案してみるることができる。
健康生活支援看護学総論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援 看護学領域	2	1	健康増進と生活の質の向上を支援する看護実践上の課題を見出すための知識を身につけることを目的とし、ヘルスプロモーションの概念と健康課題の社会診断・疫学診断の方法について概説する。また、現代社会における健康生活支援看護実践上の重要な課題として、家族支援、精神障がい者支援、生活習慣病予防対策、在宅ケアの実践例並びにこれらに関連する制度・政策を取り上げ、グループディスカッションを通じて、様々な健康レベルにある個人・家族のセルフケア能力を向上する支援、生活を支える環境づくり、及び多職種多機関連携についての理解を深化する。 (オムニバス方式/全15回)	1. 社会診断および疫学診断に基づき、特定地域（集団）の健康課題解決を行う看護実践の方法について説明できる。 2. 健康生活支援看護実践上の現代的な重要課題について、その社会的背景、関連する制度・政策を説明できる。 3. 様々な健康レベルにある個人・家族に求められる、健康増進と生活の質向上に向けた看護実践と多職種多機関連携の特徴について説明できる。 4. 個人・家族のセルフケア能力を向上する支援と、生活を支える環境づくりの双方向から、健康生活支援の枠組みを構築できる。	1. 社会診断および疫学診断に基づき、特定地域（集団）の健康課題解決を行う看護実践の方法の要点を説明できる。 2. 健康生活支援看護実践上の現代的な重要課題について、その社会的背景、関連する主な制度・政策を説明できる。 3. 様々な健康レベルにある個人・家族に求められる、健康増進と生活の質向上に向けた看護実践と多職種多機関連携の特徴について概ね説明できる。 4. 個人・家族のセルフケア能力を向上する支援と、生活を支える環境づくりの双方向から、健康生活支援の枠組みを検討できる。
母性看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援 看護学領域	2	1	母性看護学の基盤となる概念、理論、及び思春期保健、リプロダクティブ・ヘルスにおける重要な実践モデルについて、最新の知見にもとづき教授する。また、女性のライフサイクルに応じた健康課題と支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を検証する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。 (オムニバス方式/全15回)	1. 母性看護学の基盤となる概念や理論（ウィメンズヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ、アタッチメント、危機理論、エンパワーメント、セルフケア、ソーシャルサポートなど）が理解できる 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題と影響を与える要因が説明できる 3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護者の役割と課題が考察できる	1. 母性看護学の基盤となる概念や理論（ウィメンズヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ、アタッチメント、危機理論、エンパワーメント、セルフケア、ソーシャルサポートなど）が理解できる 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題と影響を与える要因が説明できる 3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護者の役割と課題について議論を通して理解できる
精神看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援 看護学領域	2	1	(概要) 精神看護学の基盤となる概念、理論、及び、メンタルヘルスにおける重要な実践モデルについて、最新の知見にもとづき教授する。また、地域で生活する精神障害者における健康課題と支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を検証する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1. あらゆる人の精神的な発達に関する理論とその特徴について説明できるとともに、精神の発達における現状の課題について考察できる。 2. ケアモデルを理解した上で、精神障がい者の身体・心理・社会面の評価尺度を適切に活用できる。 3. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルについて最新の知見に基づき理解を深めることができる。 4. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルの実践や研究における応用と課題について考察することができる。	1. あらゆる人の精神的な発達に関する理論とその特徴について説明できるとともに、精神の発達における現状の課題について議論することができる。 2. ケアモデルを理解した上で、精神障がい者の身体・心理・社会面の評価尺度を適切に活用することを理解できる。 3. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルについて最新の知見に基づき議論を通じて理解することができる。 4. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルの実践や研究における応用と課題について、議論を通じて理解することができる。
地域看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援 看護学領域	2	1	地域看護学並びに地域看護活動の基盤となる主要な概念、理論、モデルについて、地域看護学のパラダイムに基づき、地域で生活する個人・家族・集団に対する看護実践、並びに地域（コミュニティ）全体を対象とする看護実践への適用の2つの観点から取り上げ、最新の知見にもとづき教授する。また、地域看護学の実践分野である公衆衛生看護活動および在宅ケア・看護活動の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を明確化する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。（オムニバス方式/全15回）	1. 地域看護学ならびに地域看護実践における国内外の動向を理解し、その課題と展望について考察することができる。 2. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて最新の知見に基づき説明することができる。 3. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて地域看護実践や研究における応用と課題について適切に考察することができる。	1. 地域看護学ならびに地域看護実践における国内外の動向について適切に説明することができる。 2. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて最新の知見に基づき概ね説明することができる。 3. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて地域看護実践や研究における応用と課題について概ね適切に考察することができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
健康生活支援看護学演習	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援 看護学領域	4	1	<p>個人・家族のセルフケア能力向上に働きかけるとともに、住民や多職種多機関と連携して環境づくりを行う、ヘルスプロモーションの視点から、健康増進と生活の質の向上を支援する看護実践上の課題について、学生自身の問題意識にもとづき、国内外の文献検討やフィールドワークを行い、その成果発表とディスカッションを通じて研究疑問を洗練する。さらに、研究疑問に適した研究デザインを選定し、研究計画を立案するための基礎的能力を発展させる。</p> <p>なお、本科目の運営については、問題意識の掘り下げと問題意識の包括的検討の双方向から探究できるよう、研究計画作成のプロセスにおける「文献検討」「フィールドワークの計画と実施」「研究計画立案」は、学生の研究疑問に直結した分野で指導を行い、「研究テーマの発表と討論」「文献検討結果の発表と討論」「フィールドワーク成果の発表と討論」「研究計画の発表と討論」は、分野横断的に指導を行う。 (共同/全30回)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検索が行える。</li> <li>2. 和文および英文の研究論文をクリティークすることができる。</li> <li>3. 自身の問題意識に基づくフィールドワークの計画、実施、成果のまとめ、発表について、教員の指導の下、概ね自立して行える。</li> <li>4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを洗練し、概ね妥当な研究計画を立案することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生自身の問題意識に基づき、国内の文献検索が行える。</li> <li>2. 和文の研究論文をクリティークすることができる。</li> <li>3. 自身の問題意識に基づくフィールドワークの計画、実施、成果のまとめ、発表について、教員の支援を得て行える。</li> <li>4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを一定程度洗練し、研究計画を立案して行うことができる。</li> </ol>
特別研究	看護学研究科 特別研究	8	2	<p>各領域の演習で洗練した研究疑問に基づき、修士論文完成までの実際的な指導を行う。具体的には、研究課題の明確化、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションまでが円滑に行えるように指導し、看護研究を行う基礎的能力を育成する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検討により研究課題を明確化し、倫理的配慮を行いながら、適切な研究計画を立案することができる。</li> <li>2. 研究計画に応じた適切な方法により、データを収集することができる。</li> <li>3. データの種類に応じた適切な方法により、データを分析することができる。</li> <li>4. データに基づき深く考察を行い、看護実践への示唆を得ることができる。</li> <li>5. 要領に則り修士論文を執筆し、完成させることができる。</li> <li>6. 研究成果を発表し、研究課題の今後の発展につながる建設的なディスカッションを行うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検討により研究課題を明確化し、倫理的配慮を行いながら、研究計画を立案することができる。</li> <li>2. 研究計画に応じた方法により、データを収集することができる。</li> <li>3. データの種類に応じた方法により、データを分析することができる。</li> <li>4. データに基づき考察を行い、看護実践への示唆を得ることができる。</li> <li>5. 要領に則り修士論文を執筆し、完成させることができる。</li> <li>6. 研究成果を発表し、ディスカッションを行うことができる。</li> </ol>